

とうかん

陶棺

西大寺赤田町

あこたおうけつぼぐん

赤田横穴墓群出土

古墳時代後期（6世紀）

古墳時代後期の墓におさめられた焼き物の棺。外側に埴輪と同じような格子状の突帯がつき、脚部にも円形の穴が開けられており、埴輪つくりと同じ技法でつくられています。奈良市の西北部は古墳や埴輪つくりをおこなった土師氏（菅原氏・秋篠氏）の本拠地とされ、秋篠や菅原周辺の丘陵につくられた陶棺をおさめた横穴墓は土師氏や土師部の人々の墓とも考えられています。



奈良市指定文化財 家形埴輪

大安寺四丁目 杉山古墳出土 古墳時代中期（5世紀）

古墳の上にはさまざまな埴輪がならべられていました。この家は切妻造の平屋で、屋根には神社で見られるような堅魚木をのせ、大きな棟木と破風形で屋根を誇張しています。棟押さえは綾杉文をつけて編み物を表しています。正面中央が扉口で左右に窓を開け、窓は妻側にもそれぞれひとつずつあります。柱は板状で角柱を表しているようで、妻側の軒には板状の桁に梁が組み合う様子も表しています。住居ではなく祭殿と考えられますが、古墳時代の建物の様子がよくわかります。

